

日本は まだまだ

日本でのクレジットカードの発行枚数は一九八九年三月末で約一億四千万枚に上り、対前年同期比で二割近い伸び(日本クレジット産業協会調べ)。この一、二年、海外旅行者の急増と共に、旅先でのカードの必要性が痛感されたこと、昨春から銀行系カードがVISA、マスターカードと並行発行を始めるなど、二重、三重の発行が相次いでいることが大きな要因だ。

発行枚数は急増 深刻な使い過ぎ 若年層に目立つ

状況によると、八九年度中にクレジットの債務返済に困って同協会を訪れた相談者三百七十七人中、四八・五％が二十九歳以下。同協会設立当初の八七年度は三一・五％だったから、子どもの速さがわかる。

・一件、生活費のためなく、ぜいたく品購入や遊興費のための債務発生が目立つのが若者の特徴だ。

日本クレジット産業協会理事の広川信彦氏によると、こうした無謀なカード利用の背景には、「支払いが延滞しても有る時払いで済む」と、利用者の誤った認識がある」という。家庭や学校での消費者教育が急務とされるゆえだが、対応の立ち遅れは否めない。広川氏がかつて高校教科書の消費者問題に触れた部分を調べたところ、問賦販売法の記述に誤りがあったり、消費経済についての時代錯誤的な考え方が目についたりしたそうだ。

さらには「せつかく生徒用の教材やビデオを作って高校に配布しても、受験に必要と無視され、たんに熱心な教師がいると同僚や父兄から白眼視される始末」も。

それでも昨春、改訂された学習指導要領では、小、中、高校の教科に消費者教育を位置づけるなど、環境改善の兆しも現れて来た。次は家庭での教育効果が開かれる番かもしれない。

これなら何も日本国内に住むことはない。仕事を待っている時は、まさか仕事をあつぽりの出してタイとか、ニューギランドに移住するわけには行かないが、定年後なら生活費の安い、暖かい、た国で老後を送ることもできる。働いていながら断絶、定年後、日本国内に住まない積りなら、そもそも高い家を買うこともない。将来、住む家も外国で買えばいいし、将来に備えても円決済も、日本国内に限ることはない。

その中に物をくぐるものも、老後を暮らすのも外国へ行ってやり、家を買うへ行ってもよくなる。ポイント・ビザだけ日本を目標し、日本に住むことになった日本人は安上がりな生活を求める外国へ逃げ出すことになつてしまふ。(作家)

女性かわらばん
●恋ん

予測式電子体温計は誤差が大きい。先ごろ東京で開かれた日本サマーロジ学会で、大阪経済大学助教授の西山豊氏がこんなショッキングな話を披露した。予測式は一分間の温度上昇曲線から十分後の温度を予測する仕組みの体温計。だが、当てる部分や角度によって大きく誤差が出るというのだ。

西山氏が水銀体温計と予測式で四十二人の女性の体温を測定したところ、水銀体温計は一人を除きすべてボーとした。

予測式電子体温計の精度にバラつきがある。精度を厳しくチェックしていない点も問題らしい。西山氏は「女性の基礎体温の測定に予測式を使うのは考えもの。水銀体温計で測るか、電子体温計でも実測式を利用した方がいい」とアドバイスする。今後、議論を呼ぶような学会リポートだ。

が手に入る。

この人、三度以内に収まった。残りの一人も〇・七七度と、許容範囲内の一〇・二度まで誤差があり、かなりのバラつきが見られたという。

予測式電子体温計の精度にバラつきがある。精度を厳しくチェックしていない点も問題らしい。西山氏は「女性の基礎体温の測定に予測式を使うのは考えもの。水銀体温計で測るか、電子体温計でも実測式を利用した方がいい」とアドバイスする。今後、議論を呼ぶような学会リポートだ。